

日本地球掘削科学コンソーシアム
第3回IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時:平成17年7月27日(月)～ 29日(水)

--- メール会議・議事案件 ---

1. SAS関連

(1) 国際パネル委員のrotationについて

- ・ SSEPの新共同議長および新国際パネル委員の承認 [報告] (事務局)
- ・ 多田隆司委員が次期共同議長候補社に指名・承認済
(本年度11月ハワイ会議で、荒井共同議長が退任)
- ・ 富士原敏也氏 (JAMSTEC) がISSEP国際パネル委員として承認済
(ハワイ会議より正式メンバーとして活動開始)
- ・ 本人および国内関係者への周知と、国際手続きとしてIODO-MI札幌オフィスへの通知

各国際パネル委員のrotationスケジュールの作成 [検討] (事務局)

- ・ 事務局より関係者(専門部会と国際パネル共同議長又は代表者)との協議のもと作成
共同議長退任後、自動的にさらに1年国際パネル委員として残留 [検討] (事務局)

(2) IODP・SPPOC/SPC議長・副議長の選出について [確認] (事務局)

【添付資料】

- ・ 今後上記手順にもとづいて実施
- ・ 変更・加筆などへの柔軟性

(3) SPPOC長崎会議と国内ワークショップ開催について [報告] (巽)

(4) 上海SSEP報告済み [確認] (海野)

[i-sikkou:01799]を参照下さい。

(5) EDPパネル [報告] (阿波根)

旧TAPメンバーが移行するとしてIODP-MIへ推薦済み。CVは原則として再度集める
(確認のうえ、旧TAPバージョンで良い方はそのままIODP-MIへ送付する) こととした。
第1回については、米国東海岸にて開催地を選定する模様(札幌開催はなくなった)。

2. 国内専門部会

(1) 国内科学計測専門部会からの提案 [報告] (石橋)

[i-sikkou:01805]もご覧ください。

(提案)

- ・乗船予定者への事前説明を強化する(方策を議論する)
- ・次の乗船予定者のために航海中におこった諸問題をフィードバックする体制を議論する(航海終了後のアンケートの実施など)

(背景)

「日本から乗船した研究者の一部の方に、船上ルーチン作業であまり活躍していない(できない)方がいるようだ」という噂がちらほら聞こえており、対応が必要なのではないか。

「必ずしもコミュニケーション不足によるのではなく、そもそも試料の取り扱いに関する技術的な訓練を受ける機会が、大学教育の課程で少なくなっており、特に若い学生さんが事前の準備なく乗船した場合に、結果的に対応しきれなくなっているおそれがある」

(コメント)

背景にあげられた問題については、科学計測専門部会が担当すべき課題として前回の部会でも少し議論した。

「船上分析関連のマニュアルについてはWWWに全部あるはずだ、と言っても実際に読み切るのは難しいので、簡単な日本語解説版を準備したほうが良いだろう」

「高知大学のコア解析スクールなどを活用できるのでは？」といった意見がこの中で出ている。

ただし、乗船者を推薦しガイダンスを行なっている部会との連携がないと、対策をしても実際に機能しないので、一度、執行部会で議論したい。

(執行部における対応策の提案)(阿波根)

Phase I 乗船者にアンケートを実施する(乗船対応者:阿波根,荒井,事務局). 全般的事項については執行部乗船対応者および事務局で作成し,専門事項に関しては対応する専門部会よりアンケート案を出して頂く. これらを事務局でまとめて,乗船研究者に対してメールにてアンケート調査を実施する(目標:素案を9月末までに作成,年度中に全乗船者に実施し,来年度には具体策の検討を執行部・各専門部会にて行いたい. 次のPhase には問題がクリアされている事を目標とする).

3. 乗船研究関連

(1) 推薦状況[報告] (阿波根)

- ・ Cascadia Margin (USIOの要請に応じて珪藻専門家を追加急募していたが、秋葉文雄氏が乗船することで決定)
- ・ Tahiti Sea Level (Jody Webster氏をextraで推薦中だが、国内における客員受入れで問題が生じている。またMSPの傭船交渉が順調でないので、実施時期については変更もあり得る)
- ・ 乗船メンバーが未だ確定していないのはSuperfast3航海のみとなった。なお本航海については科学コミュニケータの乗船も希望が出されており、USIOへは要望を伝えている。

(2) アジア諸国からの乗船研究者の応募・選考(推薦)手順について(事務局)

[確認] 【添付資料】

- ・ 今後上記手順にもとづいて実施
- ・ 英訳文章化
- ・ 変更・加筆などへの柔軟性
- ・ 客員研究員は受入側機関の受入規程に依存する点に留意(現在、タヒチ航海乗船予定のJody Webster氏の件で主席の所属する大学側で申請却下され、海洋研に客員を依頼中)

(3) 乗船研究者の研究支援の促進について

- ・ JAMSTECへの更なる要請(下半期調整)
- ・ 競争的資金の獲得(内部努力)

4. 広報関連

キャンペーン予定については、[i-sikkou:01741]を参照下さい。

5. 国際対応等

(1) Management Retreatの報告

[i-sikkou:01798]をご覧下さい

(2) 第2回Program Member Office meeting 予告

IODP-MIならびに各国プログラム事務局による会合が10月24日、京都で開催される予定。

6. J-DESC「陸上掘削部会のHP」の解説について(事務局)

[要望]

- ・ J-DESC HPへのアクセス

7. その他 (AESTO事務局/北大事務局)

(1) JDESCの新しいパンフレットの製作について

(2) 一般向け「ちきゅう」パンフレットの製作について

(3) JDESCの法人化について

(4) 徐執行部員の留任解除について

・ 国際交流において、アジアのIODP参加への目処が一段落したことから、執行部留任を解除する事を了解頂きたい。

(5) 事務局コーディネータ(西川氏後任)の業務についての提案

・ 西川氏後任の方に、まずはJDESC全体の動きを把握して頂く為にニュースレター作成を担当頂いてはいかがか？

-----合意事項-----

1) 各国際パネル委員の rotation スケジュールの作成については、各専門部会と連絡を取りながら作成をすすめる(荒井共同議長の提案に沿って、パネル委員ローテーションの調整をはかる)。

2) 乗船者アンケート調査については、基本的に進める方向で検討する(詳細について要検討→阿波根対応)。

3) 徐執行部員の留任解除について了承する。

4) JDESC ニュースレター発行について、西川氏後任の方を中心に進めていく。

5) 「日韓共同日本海掘削ワークショップ」について、執行部からは海野執行部員が担当することとなった。

【次回執行部会にて議論・報告】

3. 乗船研究関連

(3) 乗船研究者の研究支援の促進について

・ JAMSTEC への更なる要請(下半期調整)

・ 競争的資金の獲得(内部努力)

6. J-DESC「陸上掘削部会のHP」の解説について(事務局)

7. その他 (AESTO事務局/北大事務局)

(1) JDESCの新しいパンフレットの製作について

(2) 一般向け「ちきゅう」パンフレットの製作について

(3) JDESCの法人化について